

令和8年度第1回山口警察署協議会会議録

開催日時		令和8年6月12日（金） 午後3時00分から午後4時30分までの間
開催場所		山口警察署4階 講堂
出席者	委員	磯村委員、春永委員、山本委員、藤井委員、真庭委員、板垣委員、佐伯委員、金子委員、福田委員、岡委員、品川委員、野村委員、長村委員 計13名
	警察署	署長、副署長、地域官、主幹兼会計課長、警務課長、留置管理課長、生活安全課長、地域課長、刑事第一課長、刑事第二課長、交通課長、生安課長、警察安全相談課長 計13名
議題		1 所管業務の推進状況 2 特殊詐欺被害防止対策
1 会長挨拶 令和8年度第1回山口警察署協議会を開催するにあたり、一言ご挨拶申し上げます。新年度に入り、最初の協議会であるが、昨年度同様、忌憚のない意見をよろしくお願いする。 先週、例年どおり梅雨入りしたが、山口市は大雨に伴う災害の発生も懸念される。今年は自然災害による被害のない穏やかな梅雨時期であって欲しい。 少し、管内の話をさせて頂くと、今年1月から3月までの間に、市内居住の60歳代の男性がSNSを通じて知り合った者から、暗号資産の投資を勧められ、12回にわたり合計約5,700万円相当の暗号資産を購入してだまし取られるロマンス詐欺事件が発生したとの報道があった。 SNSを悪用した詐欺事件の被害は、若者に限らずどの年代でも被害に遭う可能性があり、どこに端緒が潜んでいるかわからない。自分自身が気を付けるだけでなく、どうしたら詐欺被害に遭わなくて済むのか、家庭や職場でもっと話さなければならぬ、そんなことを強く感じたところである。 今回の諮問事項は、「特殊詐欺被害防止対策」についてであるが、後程、生活安全課長から説明があると思う。まずはこの課題について理解を深め、委員の皆さんと協議する中で、我々協議会委員で何か「後押し」できることはないか、探していきたいと考えている。 2 署長挨拶 (省略)		

3 所管業務の推進状況（署長）

各課の取組み及び令和8年5月末の統計数値などにに基づき、現在の業務推進状況について、以下の項目に沿って説明を行った。

- (1) 採用募集活動
- (2) 刑法犯認知件数
- (3) 交通事故発生件数

4 諮問事項説明（生活安全課長）

【特殊詐欺被害防止対策】

- (1) 被害認知状況
 - 。 うそ電話詐欺及びSNS型投資・ロマンス詐欺（令和8年5月末）
 - 。 ニセ警察詐欺について
- (2) 被害の特徴
 - 。 手口別
 - 。 交付形態別
 - 。 年代別
- (3) 被害防止対策
 - 。 戸別訪問活動や巡回連絡を通じた直接的な被害防止広報
 - 。 「YouTube」や「X」等のSNSを利用した情報発信
 - 。 金融機関と連携した被害防止及び犯人検挙
 - 。 携帯電話の対策

5 協議・検討

（委員）

警察庁が推奨する2つのアプリについて説明があったが、これは両方入れたほうがいいか。

（生安課長）

入れたほうがいと広報している。 아이폰は、2つのアプリが入れられ、アンドロイドはどちらかのアプリを入れることができるが、アンドロイドは、初めからウイルス対策ソフトが導入されている場合もあり、アプリを使用したい場合は、もともとのウイルス対策ソフトを切る必要があるため、どちらを使用するかは自身での選択となる。

（委員）

この特殊詐欺は組織犯だと思うが、全国における組織の数の把握はあるか。

（生安課長）

特殊詐欺は、匿名流動型犯罪グループ、いわゆるトクリュウグループが加担しているが、これは首魁はいるものの、流動型と言われるだけあって人員の変動があるため、実際数としての公表はされていないと思われる。最近、栃木においてトクリュウグループによる事件があったが、グループ内で役割分担があり、その中の一つを捕まえ、首魁にたどり着くよう捜査をしている。

(委員)

首魁はどれくらいいるのか。

(生安課長)

ある程度の把握はあると思われるが、共犯性があるため、公表はできない。

(委員)

協議会委員になったころは、まだオレオレ詐欺くらいしかなかったが、なりすまし、ロマンス、投資詐欺が出てきて、最近ではSNSで農作物の販売と銘打って、代金を振り込ませるも農作物の送付がないという新しい手口があることを知り、自分自身も引っかかるかもしれないと、日頃から念頭に置いている。1月頃、関東でマンションの共同経営にかかる詐欺事件をニュースで拝見し、認知症の方が被害に遭ったようだが、山口市では、認知症の方が犯罪に巻き込まれないようにするため、連携している機関などはあるか。

(生安課長)

当課では、包括支援センターや民生委員と連携し、認知症の方に限らず防犯情報の配布や戸別訪問での声掛けなどの活動をしている。また日頃から高齢者と「こういう詐欺の電話があった。」などの会話をするのが、詐欺被害防止に効果的であることから、郵便局や高齢者との接点の多い配食サービス業者に対し、高齢者への声掛けを依頼している。

(委員)

先ほどの説明で、実際の被害件数、金額については理解したが、未遂を含む水面下での事件について、警察が把握している犯罪の分母はどれくらいあるのか。

(生安課長)

実際の相談件数は資料がないが、「こんな電話が掛かってきた。」などの不審電話に関する情報提供も含めると、一日に十件程度あると思われる。実際の被害件数は、相談ができず、もしくは自分がそう思い込んで強迫観念に駆られてしまい、お金を支払ってしまった件数で、相談件数は、本人が看破しているため警察へ通報がなされたものであるため、相当数ある。

(委員)

私は金融機関に勤めており、変な口座の動きがあればチェックするようフィルターをかけており、実際に行員から「これはおかしい。」と報告があれば確認して、疑わしい取引ということで届け出ている。要は、私の身近なところでも発生し、新聞などでも毎日のように詐欺事件の記事を目にすることから、警察では相当数の相談があると思われる。先ほどのアプリを使って被害防止対策を行うことは非常に良いことであり、今後は携帯電話会社や国と連携し、着信時に国際電話からであれば赤色で表示されるなど、システム関係で注意喚起ができるようになればいいと思う。犯人の話術や手口が巧妙であるから被害に遭ってしまうのだろうが、新聞などで被害を見ると、腹立たしいところがある。今後は、様々なところと連携しながら、システム構築などの検討をする必要があると思う。

(委員)

詐欺被害について、「今日こんな電話があった。」「それは詐欺だね。」などの話を家庭で話すことができれば、被害対策になると思うが、PTAの会議などで、詐欺被害防止に関する話などはあるか。

(委員)

PTAの定例会であれば、大歳であれば管轄の維新公園交番から自転車盗などの説明はあるが、具体的な話はない。

(委員)

警察がPTAの会議などに出席し、被害防止対策に関する具体的な話をするような取組はあるか。

(生安課長)

PTAの定例会に出席して説明するという取組はないが、会長が言うとおりに、家族の中で話題に出すことが最も有効であることから、要望があれば説明に行く。また、悶々として誰にも相談できずに被害に遭う、犯人の呪縛を解いてくれる人がいないということも、被害に遭う原因の一つであるため、「それおかしいよ。」などと声を掛ける人がいれば、多少でも被害減少に繋がることから、PTAに限らず、各種会合で裾野を広げて幅広く防犯活動を行っていきたい。

(委員)

1か月程前、私の不在中に、防犯カメラの情報提供の依頼ということで刑事が二人来たが、こういうことはあるのか。

(生安課長)

防犯カメラは犯罪捜査のみならず、抑止活動につながることから、警察としては防犯カメラの設置を推奨している。その中で、防犯カメラに犯人が記録されている場合があれば、犯人検挙の目的のために、防犯カメラの確認を依頼することもある。

(委員)

被害者が、SNSに記載した内容から住所や長期不在が把握され、犯罪被害に遭った事例を知った。

不安を感じた際、気軽に相談できる場所があったらいいと思う。

(委員)

うちは神社で、詐欺みたいな電話もよく掛かってくる。私はすぐに切るが、母は詐欺とわかっていながら相手と話している。要は、うちは3世代同居しているため、「こんな電話があった。」だけでなく、今母がどんな電話をしているかもわかるが、核家族化が詐欺の被害に遭う一つの原因であると考えます。先ほどの説明によると、交付形態は現金手交とATM振込が多いことがわかったが、将来的にはATMにAIカメラが搭載され、焦った顔や電話中だとシャットアウトされるなどができるようになると思っている。今すぐできる対策としては、ATMの鏡に電話中の人の姿があり、そこに自分が重なると「今電話しながら操作してい

ませんか。」などの表示が出て、一度冷静にさせるような仕掛けや、隣のＡＴＭに「隣の人が電話しながら操作しているので声を掛けてください。」などの表示を出し、隣の人からの協力を得るといことはどうか。また、ＡＴＭの操作をする際に下を向くことから、床に注意喚起の文章を貼るなどはすぐにできる対策だと思うため、まずはこういうところから始めてもらいたい。

（委員）

実際にＡＴＭのＡＩを活用した対策というのは、具体的には話せないが進んでいると聞いている。

特殊詐欺に関しては、まず電話に出ない習慣が必要であると考えます。固定電話でも携帯電話でも、登録のない番号からは出ない、または電話番号を検索してから掛けなおすこともできる。繰り返しにはなるが、やはり家庭内でそういう話をするのが一番良いと思うが、独居の家庭でも、必要な電話番号は登録してあげることや詐欺や勧誘的な電話番号を着信拒否にすることなどもできると思う。

（生安課長）

ナンバーディスプレイは、詐欺被害対策の有効的な手段として警察でも推奨している。最近の固定電話は、ナンバーディスプレイが付いているものが多いものの、ナンバーディスプレイの利用は有料であることから、利用していない方もいるが、７０歳以上の方がいる家庭で、ＮＴＴに申請すれば、利用料が無料になるサービスがある。また、以前は警察でナンバーディスプレイ式の固定電話を配布する活動もあった。

（委員）

私の知り合いが、「この電話は録音しています。」というアナウンスが最初に流れるものを導入したが、実際どれくらいの効果があるのか。

（生安課長）

具体的な導入台数の数字は資料がない。犯人側としては、自分の声が録音されている、警戒されているということがわかれば、電話を切ることから、詐欺被害防止の有効な手立てであり、効果があると思われる。もともとアナウンス機能が付いている電話は、ナンバーディスプレイとともに警察で推奨している。

（委員）

詐欺の手口が巧妙になり、自分自身が被害に遭うのではと不安である。回覧板などで、詐欺の手口などを周知して欲しい。

（委員）

知らない番号から電話が掛かってきた際に、「子供に代わります。」など、相手が能動的に電話を切るような応対方法も必要だと思う。

（生安課長）

参考にする。

(委員)

私が最近体験した中で、詐欺事件の被疑者側も騙されたり脅されて犯行をしなければならぬ状況で困っていたが、その被疑者も脅され、自身も犯罪に手を染めているため、警察に相談できないというケースがあった。そのような後ろめたいが抜け出したい人、加害者か被害者かよくわからない人に対し、警察が守るための制度があるのか、またはあるとすればどのように広報しているのか。

(生安課長)

全国の警察が持っているXやユーチューブのアカウントで広報をしている。Xは、トクリュウグループが闇バイトの募集で若者を引き入れていることから、あえてそういう闇バイト募集のアカウントに「トクリュウグループに入り犯行に手を染めてしまったが抜け出したい人は勇気を持って警察に連絡してください。」と返信しており、警察では、被疑者であっても救済するというスタンスは取っている。制度については、被疑者であっても、トクリュウグループという組織的な犯行であるため、脅されるなどがあれば、それぞれ必要な対応をしていく。

(委員)

シェルターのような具体的なものはあるのか。

(生安課長)

犯罪に加担したものを保護する施設、いわゆるシェルターは用意していないと思われる。

(委員)

若者が、高額バイトやホワイトバイトの名目で応募することがあると思われるが、「警察は犯罪に加担したとしても守るから、安心して相談するように。」とPTAの定例会などで広報すればいいと思う。

(委員)

徳地では、役員会で駐在所の方が特殊詐欺の説明に来た。徳地は、駐在所が八坂、島地、堀の3か所で少ないが、3人とも大変な中協力してよくやってもらっている。PTAで話がないとあったが、駐在所などをお願いすればいいと思う。